

重点課題

【課題1】 文章と図とを結び付け必要な情報を見付けて文に表す。(設問2三)
 文章から見付けた情報のみ文に入れて、図の中の言葉を入れていない児童が18.2%

【課題2】 目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する。(設問2四)
 「面ファスナーのよさを取り上げながら書く」という条件を満たしていない児童が40.9%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】 目的に応じて、文章からだけでなく図や表からも必要な情報を見付け、複数の情報を入れて文に表現させる活動を設定する。他教科でも取り入れる。

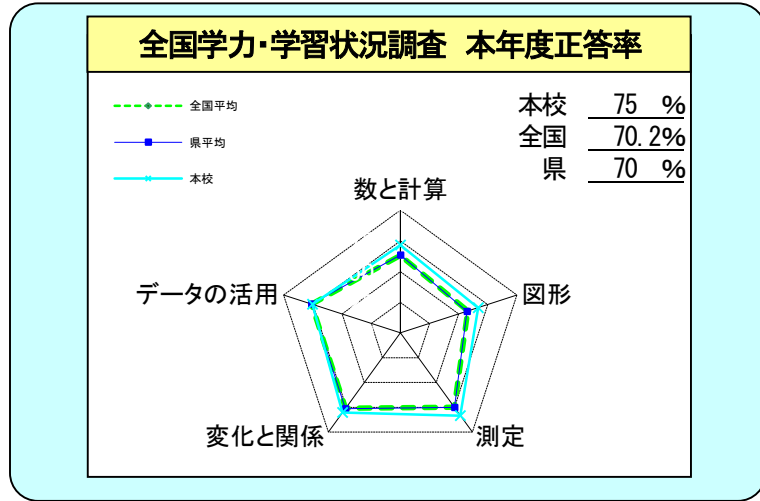
【課題2】 1つだけでなく複数の条件に合わせて文を書く活動を設定する。文字の制限を設け、要約して書く活動を教科の枠を越えて仕組む。「まとめ」や日記等

※ 小中一貫した取組については、どの教科でも条件を付けて記述で表現させる活動を取り入れる。複数の資料から、目的に応じて必要な情報を選択して表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4・5年生 標準学力調査	5年生 H29「全国学力」	5年生 R3「全国学力」	4・5年生 学年末テスト
目標値				75%	70%	70%	85%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4・5年生 標準学力調査	5年生 H29「全国学力」	5年生 R3「全国学力」	4・5年生 学年末テスト
目標値				75%	70%	70%	85%
実施後数値							

来年度に向けて



重点課題

【課題1】速さを求める除法の式と、商の意味を読み取り、解答を選択する。
 (設問1(3)) 変化と関係(1分間当たりの道のりを求める式を選んでいる児童18.2%, 商の数値が小さい方が速いと捉えている児童が18.2%)

【課題2】二次元の表の各欄の意味を理解して、解答を選択する。(設問3(3))
 データの活用(横の項目の欄は理解しているが、縦の項目の欄を捉えることができていない児童が27.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】問題文の数字と式・答えの数字とを結び付け、式や答えの意味を全員に説明させる。単位に着目させ、除数や被除数が問題文のどこに当たるのかを捉えさせ、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解させる。商についても、単位量当たりに移る距離が長いから「速い」、短いから「遅い」と言葉で説明できるようにする。

【課題2】表から分かることや各欄の意味を説明させる。他教科においても表やグラフ等のデータを活用し、多面的に読み取らせる指導を行う。

※ 小中一貫した取組については、自ら課題を見つけ、習得した知識・技能を活用したり、図と式を関連付けながら根拠を挙げて説明したりする活動を通して、数学的な思考力・判断力・表現力を高める。

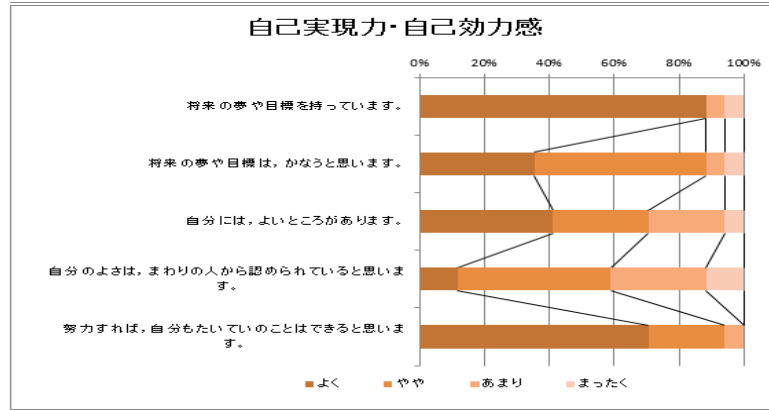
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 単元テスト	4・5年生 標準学力調査	5年生 H29「全国学力」	5年生 R3「全国学力」	4・5年生 学年末テスト
目標値			85%	75%	70%	70%	85%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			4年生 単元テスト	4・5年生 標準学力調査	5年生 H29「全国学力」	5年生 R3「全国学力」	4・5年生 学年末テスト
目標値			80%	75%	70%	70%	85%
実施後数値							

来年度に向けて

質問紙調査 (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査) (児童生徒学習意識等調査：児童質問紙調査)

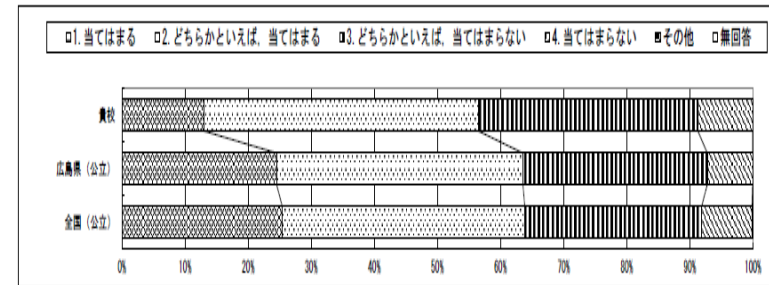
(1) 生活・学習



	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いますか。」(5年 学習意識等 58.9% よく 11.8% やや 47.1%) 自己肯定感が広島県平均 66.6%より低い。	縦割り班活動や学校行事で仲間と共に主体的に取り組める場を設定し、自己肯定感を高める。活動前と活動後の記述で自己の変容をふり返らせたり、他者からの学びを出し合ったりする。また、小中一貫した取組により、活動ごとに自己肯定感を問うアンケートや相互評価を行い検証を共有する。	5年	70%	児童アンケート	12月	

(2) 教科

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていますか。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていますか。」(6年全国 56.5% 当てはまる 13% どちらかといえば当てはまる 43.5%) 広島県平均 63.5%・全国平均 63.6%より低く、「4当てはまらない」と回答した児童が2人いる。	発表者と聞く人とが双方向に考えを交流できるように表現させる。「～ですよね」「ここまですか。」と1つずつ確認をとりながら発言させ、必要に応じて質問させる。まちがっても途中まででもいいという話しやすい風土をつくる。	6年	68%	児童アンケート	12月	
全国・学習意識等	「算数の問題の解き方がよく分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」(6年 全国 82.6% 当てはまる 47.8% どちらかといえば当てはまる 34.8%) 広島県平均とほぼ変わらないが、他の項目と比べると低い。	問題文から、分かっている情報と問われていることを1つ1つ整理しながら図に表す等、解き方を指導する。既習事項を使って自分で考えさせる時間を確保し、最後まで解くことよきや達成感を積み上げる。	6年	85%	児童アンケート	12月	

算数の問題の解き方がよく分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

